47 大阪府の市街地における蚊の調査について

○瀧 幾子・弓指孝博（大阪公衛研）・吉田永祥（堺市衛研）

Survey of the mosquitoes inhabiting residential area in Osaka Prefecture

Taki, I., Yumisashi, T., Yoshida, H.

現在大阪で患者発生が見られていない蚊媒介性ウイルスが大阪に侵入した場合に備え、府内の住宅地における実際の蚊の分布を明らかにするため、府下の市街地12箇所にトラップを設置して捕獲される蚊について検討した。調査は平成15年6月末から10月末まで行い、CDCミニライトトラップを毎週1回連続24時間作動させて蚊を捕獲した。なお、蚊の誘引のためドライアイスを用いた。捕獲した蚊は雌雄種類別に分類し、そのうち雌について場所毎、種類毎にウイルスの保有について検査した。捕獲された蚊は8種1643匹で、アカイエカ（73.3%）、ヒトスジシマカ（15.0%）、コガタアカイエカ（8.0%）、シナハマダラカ（1.0%）などが捕獲され、市街地ではヒトスジシマカよりもアカイエカの捕獲率が高い傾向が見られた。

48 *Aedes albopictus*成虫に経口感染させたgreen fluorescent protein発現 *Escherichia coli*の生存率と分布

○佐藤朝光・鹿志毛信広・宮田健（福岡大・薬）・高木正洋（長崎大・熱研）・見明史雄（福岡大・薬）

The survival ratio and the distribution of an orally infectious *Escherichia coli* that expresses green fluorescent protein in *Aedes albopictus*

Satho, T., Kashige, N., Miyata, T., Takagi, M., Miake, F.

蚊類は、吸血習性により疾病を媒介するが、その疾病媒介能は、細菌感染により低下する。すなわち、蚊媒介性疾患の分布および流行は、細菌感染した蚊類の割合に影響される可能性を示唆している。したがって、蚊媒介性疾患コントロールの観点から、近年、蚊類に対する細菌感染の研究は再注目されている。その一つとして、野外採取された蚊類中腸から細菌が分離され、蚊類中腸が独自の細菌叢を持つことが示唆された。蚊類中腸の細菌叢を形成する細菌は、一般に幼虫期における食餌による感染および成虫期における樹液等の経口摂取による感染に起因する。しかし、成虫蚊類に経口感染させた細菌の蚊類生体内の動態に関する研究はほとんどない。そこで、今回、実験室内で飼育された*Aedes albopictus*に、pGFPuvを発現させた*E. coli* JM109株を経口感染させ、体内における細菌の分布および経時的生菌数について調査したので報告する。